

可児市（岐阜県）

【自治体のあらまし】

可児市は、岐阜県の中南部に位置しており、北部はおおむね^{へいたん}平坦で、南部は丘陵地となっている。市の北端部には木曽川、中央部には東西に流れる可児川があり、豊かな自然環境に恵まれている。昭和 30 年に 7 町村が合併して可児町が発足。昭和 57 年に市制を施行し、その後、兼山町と合併して現在に至る。

昭和 40 年代後半から大規模な住宅団地の開発が進み、名古屋都市圏のベッドタウンとして注目され都市化が進んだ。急激な人口の増加に伴い、大型小売店舗が進出し、大型店店舗数は県内第 2 位となっている。また、製造業においては、市内大手企業数社に加え、東海地方最大級の可児工業団地などにより製造品出荷額が県内第 3 位となっており、ものづくりのまちとして発展してきている。

人口 101,500 人（平成 30 年 3 月 1 日現在）

【文化芸術創造都市への代表的な取組】

可児市文化創造センター（アーラ）は、地域に密着した公立文化施設として、地域の文化資源を活用しながらユニークな事業を継続的に展開しており、社会包摂型の劇場運営が全国から注目を集めている。また、演劇やダンスの手法によるワークショップを学校教育に取り入れるとともに、可児市の人口の約 6.5%を占める在留外国人との多文化共生のための施策を推進しており、文化芸術の持つ社会包摂機能を、地域社会の活性化や共生社会の形成に活かしている。

●可児市文化創造センター（アーラ）

平成 14 年に市制 20 周年記念事業として誕生した劇場であり、主劇場、小劇場の他、映像シアター、ギャラリー、各種のスタジオやワークショップルームなどを併せ持つ。自主企画・制作公演の実施や、市民団体、民間団体、他館との連携事業に意欲的に取り組んでいる。

文化芸術の持つ力を活用して、子育て支援、市民の生きがいづくり、多文化共生など、地域の課題解決にも資する「アーラまち元気プロジェクト」を推進。地域拠点契約を結んでいる文学座、新日本フィルハーモニー交響楽団の協力も得ながら、年間 400 回以上実施しているワークショップ等の取組に、延べ約 8,000 人の市民が参加し、地域コミュニティの形成に寄与している。



可児市文化創造センター外観



市民ミュージカル「君といた夏」
～スタンドバイミー可児～

●文化芸術の持つ力を教育に活かす取組

小中学校において、演劇、ダンス、音楽など多様な分野の専門家によるワークショップを実施し、他者との共生について考え、コミュニケーション能力の育成を図るなど、文化芸術の持つ力を教育に活かす取組を進めている。また、演劇という視点からコミュニケーションを捉え、教育現場で実践できるよう、教員を対象として、演劇の手法を取り入れたワークショップ形式の学びの機会を設けている。



学校で行われているココロ
とカラダワークショップ

●多文化共生のための取組

多くの在留外国人が暮らしている可児市では、平成 12 年に「国際化が日常化された地域社会の実現」を基本理念とする「可児市国際化施策大綱」を策定した。平成 23 年には、多文化共生施策の基本指針となる「可児市多文化共生推進計画」を策定し、在留外国人の地域社会への参画を促す施策を進めている。また、平成 20 年に開設された「可児市多文化共生センター（フレビア）」は、多文化共生推進のための拠点施設となっている。

学校教育の分野では、外国人児童・生徒に対する初期的な日本語指導や生活指導を集中的に行う機関（ばら教室）を設置するとともに、関係機関やコーディネーターが連携し、各学校での就学状況の把握、就学相談や進路指導などのサポートを行っている。

また、様々な国籍の市民が文化・慣習の違いを超えて舞台作品を作るプロジェクトも継続して実施しており、お互いの個性や価値観の違いを認め合う多文化共生のメッセージを市民に伝える場となっている。



多文化共生センター
（フレビア）で開催された
フィリピンフェスティバル